



2020年9月期第1四半期 決算説明資料

株式会社 EduLab
東証マザーズ (4427.T)

2020年2月7日

EduLab.

第1四半期決算概況	2
2020年9月期第1四半期実績	3
2020年9月期通期見通し	9
事業トピックス①	11
事業トピックス②	13
事業トピックス③	15

1. 2020年9月期1Q決算概況

- 連結売上高 1,171百万円（前年同期比 6.9%増）
- 連結営業利益 △141百万円（前年同期は16百万円）
- 連結経常利益 △167百万円（前年同期は△90百万円）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益△119百万円（前年同期は△77百万円）
 - EPS △13.53円

2. 2020年9月期1Qの事業動向

- e-Testing/e-Learning事業では、「スタディギア for EIKEN」や新たに提供を開始した採点システム、中国自習室事業等に伴うライセンス収入の増加により増収（9.3%増）
- テスト運営・受託事業では、令和2年度全国学力・学習状況調査の準備業務や受託案件の増加により増収（2.7%増）
- 売上高は順調に推移したものの、一部先行費用の発生、人件費・減価償却費・地代家賃の増加等により営業・経常・四半期純損失となった

3. 2020年9月期通期見通し

- 通期見通しは期初予想変更なし
 - 連結売上高 8,450百万円（前年比 34.7%増）
 - 連結営業利益 1,800百万円（同 23.1%増）
 - 連結経常利益 1,570百万円（同 31.8%増）
 - 親会社株主に帰属する当期純利益 1,110百万円（同 41.0%増）

2020年9月期 第1四半期実績

損益計算書

(単位：百万円)

	19年9月期 1Q	20年9月期 1Q	対前年同期比
売上高	1,095	1,171	+6.9%
EBITDA	121	11	△90.5%
EBITDA率	11.1%	1.0%	△10.1pt
営業利益	16	△141	-
営業利益率	1.5%	-	-
経常利益	△90	△167	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△77	△119	-

- 売上高はe-Testing/e-Learning事業、テスト運営・受託事業の両セグメントともに順調に推移し、**対前年同期比6.9%増**となる**11.7億円**を達成
- しかし、**売上原価および販売管理費の増加**を吸収できず、**1.4億円の営業損失**となった
 - 費用の主な増加要因は以下の通り：
 - ① 通期では黒字見通しの埼玉県の学力・学習状況調査事業で発生した一部先行費用
 - ② テストセンター事業における先行費用
 - ③ 会社創立20周年に伴う特別賞与支給（約14百万円増加し、約84百円に着地）
 - ④ 人員増に伴う人件費の増加（約70百万円増加し、約375百円に着地）
 - ⑤ ソフトウェア開発投資に伴う減価償却費の増加
 - ⑥ 事務所移転に伴う地代家賃の増加等（約36百万円増加し、約75百万円に着地）
 - このうち①、②、③は一時的と認識（それぞれの業績へのインパクトは次頁に詳細を記載）
- 為替差益の計上等はあったものの、**1.6億円の経常損失、1.1億円の四半期純損失**となった

セグメント別の売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

事業セグメント	19年9月期 1Q	20年9月期 1Q	対前年同期比	
e-Testing/ e-Learning	売上高	700	765	+9.3%
	セグメント 損益	249	168	△32.7%
テスト運営 ・受託	売上高	394	405	+2.7%
	セグメント 損益	△7	△17	—
全社費用	△226	△291	65.2百万円 増加	

■ e-Testing/e-Learning事業

- 英検受験者数は引き続き増加した他、英検協会向け新採点システムの導入、中国自習室事業の順調な進捗等に伴うライセンス収益拡大により**増収**
- 多教科プラットフォームサービス、広告収益も増収に寄与
- セグメント損益は、人件費やソフトウェア開発投資に伴う減価償却費の増加（約32百万円増加し、約132百万円に着地）、テストセンター事業による先行費用の発生（約21百万円）等により**減益**

■ テスト運営・受託事業

- 令和2年度全国学力・学習状況調査の準備業務や、国立教育政策研究所の平成32年度経年変化分析調査の準備事業等の受託案件により**増収**
- セグメント損益は、人件費やソフトウェア開発投資に伴う減価償却費の増加（約9百万円増加し、約11百万円に着地）、埼玉県の学力・学習状況調査事業による先行費用の発生（約18百万円）等により**減益**

■ 全社費用

- 事務所移転に伴う地代家賃の増加、役員報酬の増加等

サブセグメント別の売上高

(単位：百万円)

事業セグメント	サブセグメント	19年9月期 1Q	20年9月期 1Q	対前年同期比
e-Testing/ e-Learning	英ナビ・スタディギア	376	398	+ 6.1%
	英検Jr.	56	55	△ 2.8%
	TEAP CBT	26	27	+ 2.7%
	CASEC	74	79	+ 6.8%
	テストシステム提供等	166	204	+ 23.1%

■ 英ナビ・スタディギア

- 「スタディギア for EIKEN」のライセンス収入や、広告収入の拡大等により**増収**

■ 英検Jr.

- 商品構成の見直しの最中で引き続き**対前年比で微減基調**

■ TEAP CBT

- 採点業務の増加等により**増収**

■ CASEC

- 企業や大学の市場等で受注・販売が拡大。消化も順調に進み**増収**

■ テストシステム提供等

- 英検協会向けに新たに提供を開始した採点システム利用や、中国自習室事業の順調な推移に伴い、ライセンス収入が拡大し**増収**
- AIを活用した自動採点や文字認識サービス等の外部販売も拡大し増収に貢献（約29百万円）

営業外損益

(単位：百万円)

	19年9月期 1Q	20年9月期 1Q	対前年増減額
営業外収益	33	26	△ 6
為替差益	—	25	25
投資有価証券売却益	32	—	△ 32
その他	0.8	0.6	△ 0.2
営業外費用	139	53	86
為替差損	32	—	32
ファンド運営費	33	30	3
株式公開費用	31	—	31
融資・借換関連費用	16	4	11
支払利息	9	8	1
その他	16	9	7

■ 1Q中の主な変動は、為替変動による為替差損益や、投資有価証券売却益など

- 為替差損益は前年同期に32百万円の為替差損を計上したが、今期1Qは円安基調のため25百万円の為替差益となった
- 投資有価証券売却益は前年同期に有価証券売却益として32百万円を計上していたため、今期1Qは減益

(単位：百万円)

	2019年 9月末	2019年 12月末	増減額
流動資産	9,159	7,771	△ 1,388
現預金	6,179	6,175	△ 4
その他	2,980	1,596	△ 1,384
固定資産	3,679	4,152	+ 473
ソフトウェア	2,054	2,359	+ 304
投資有価証券	703	756	+ 53
その他	921	1,036	+ 114
繰延資産	14	12	△ 1
資産 合計	12,853	11,936	△ 916
流動負債	4,499	4,017	△ 481
有利子負債	3,360	3,360	-
その他	1,139	657	△ 481
固定負債	1,562	1,530	△ 32
有利子負債	1,526	1,497	△ 29
その他	35	32	△ 3
負債 計	6,061	5,547	△ 513
純資産 計	6,792	6,389	△ 402
負債純資産 合計	12,853	11,936	△ 916

- 受取手形及び売掛金、ならびに仕掛品がそれぞれ減少したこと等により、流動資産は1,388百万円減少
- 固定資産は前連結会計年度末より473百万円増加。主な内訳はソフトウェア304百万円増、その他168百万円増
- 有利子負債合計は29百万円減少
- テストセンター事業を含めた今後の投資計画に基づき、コミットメントラインの活用も含めて有利子負債水準を決定

2020年9月期 通期見通し

2020年9月期1Q P&L（累計）と通期予想に対する進捗

(単位：百万円)

	20年9月期 1Q (実)	20年9月期2Q (予)	20年9月期通期 (予)
売上高	1,171	2,970	8,450
営業利益	△ 141	100	1,800
営業利益率	－	3.4%	21.3%
経常利益	△ 167	20	1,570
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 119	10	1,110

- 1Qについては当期予想どおり推移しており**通期業績予想については変更なし**
- e-Testing/e-Learning事業では、英検「S-CBT」について期初想定通りの予約者数が確保できており、新たに開始するテストセンター事業に伴う売上高・営業利益が想定どおり下期から計上される見込み
- テスト運営・受託事業では、令和2年度全国学力・学習状況調査の進捗に伴い、売上高および営業利益が3Qに偏重する見通しに変更なし
- e-Testing/e-Learning事業、テスト運営・受託事業の両セグメントともにここまで売上・受注は順調に推移しており、引き続き**2Qでは全体で売上高29.7億円**の達成を予想

事業トピックス①

テストセンター事業

2020年1月17日、同1月20日付けプレスリリース

2020年4月から英検「S-CBT」（4技能1日完結）のテストセンター型受験が本格開始

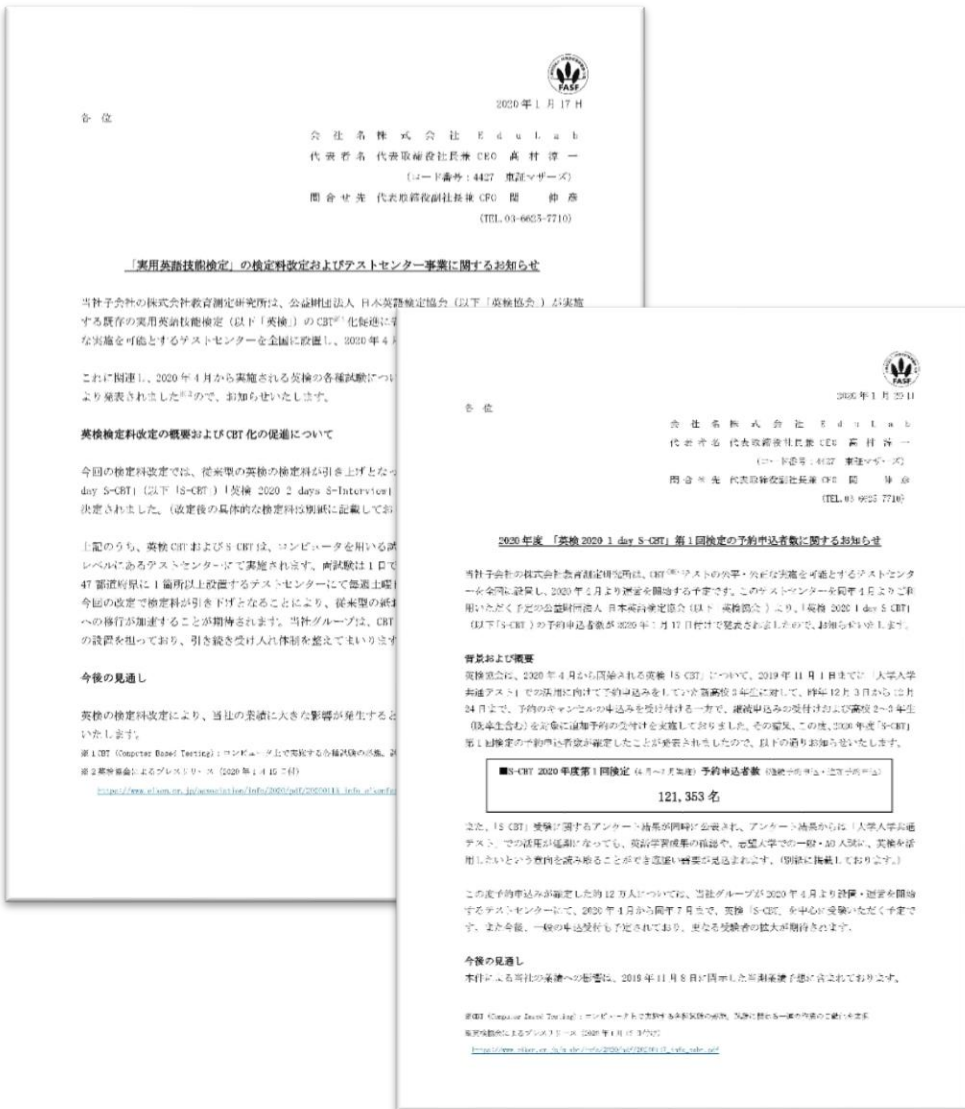
— 英語4技能検定のCBT化の加速 —

■ 英検協会の方針決定：英検の検討料改定

- 従来型の英検の検定料が引き上げとなり、CBT型の検定料は引き下げ
- CBT型はテストセンターで毎週土日に受験でき、1日で4技能受験が完了することに加え、検定料の改定により、従来型の紙と面接の受験形態からCBTへの移行が加速することが期待される

■ 英検「S-CBT」予約申込者約12万人が確定

- 英検協会は2019年11月1日までに「S-CBT」に予約申込み済みの新高校3年生に対し、キャンセル・継続・追加申込みを受け
- 結果、予約申込数**121,353名**が確定
- 今後一般の申込受付も予定され、受験者の更なる拡大が期待される



事業トピックス② プラットフォーム事業

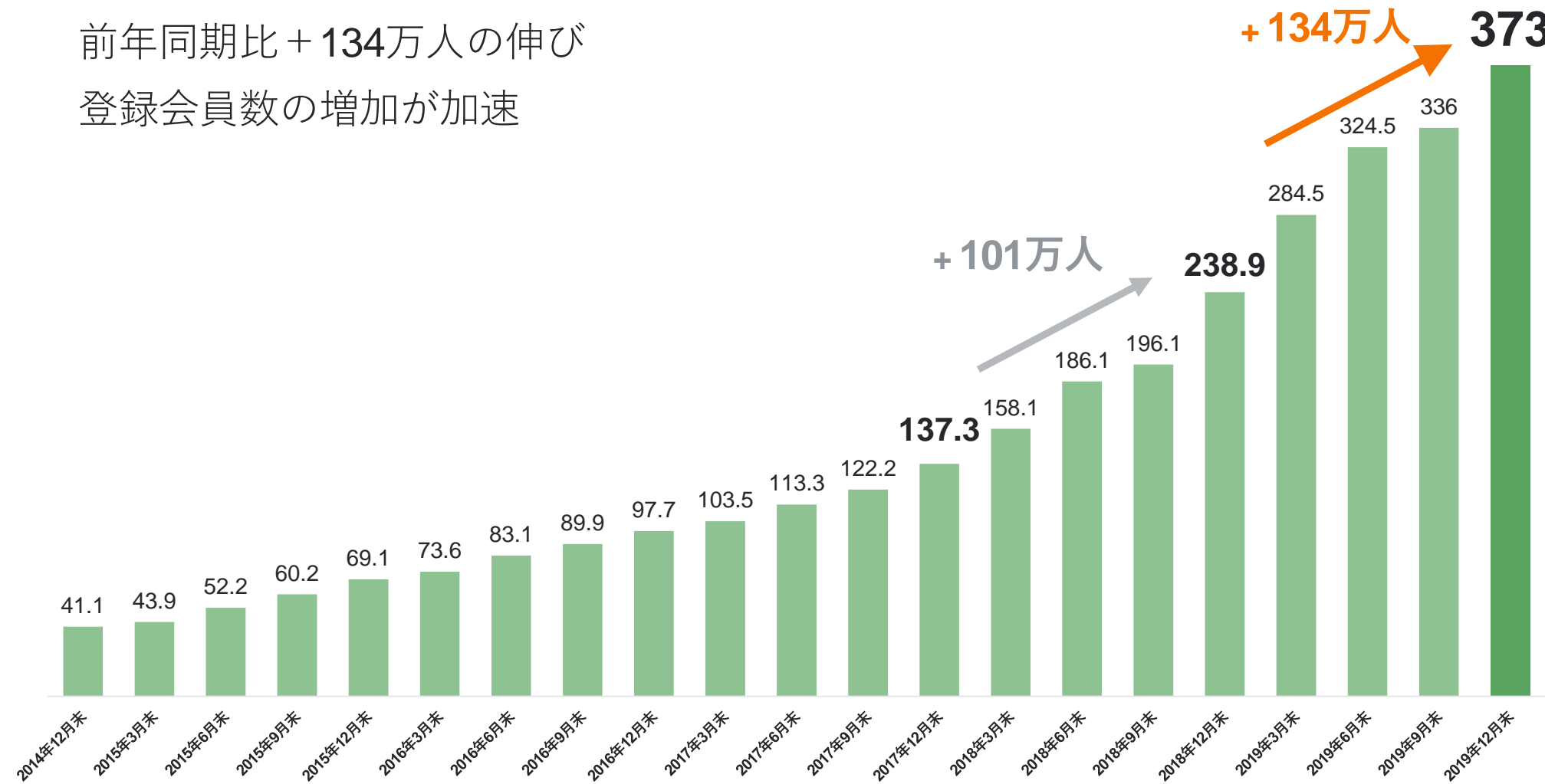
重要KPI：登録会員数

単位：万人

前年同期比 +134万人の伸び
登録会員数の増加が加速

+134万人 → 373

+101万人



事業トピックス③

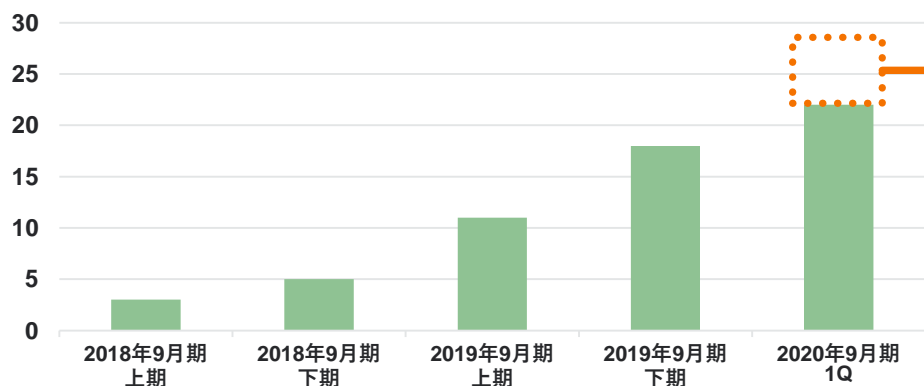
AI関連事業

前期に引き続き、複数のプロジェクトにてDEEP READが本格稼働
 トライアルから着実に運用フェーズへの移行が加速
 無償トライアルも実施中だが、有償トライアル・案件数も着実に増加

■ 延べ案件数の推移

	有償案件数	2018年9月期	2019年9月期	2020年度(1Qのみ)
有償案件数	本格稼働案件数 (ランニングで売上)	2	17	22
	トライアル・カスタマイズ 等案件数 (スポットで売上)	6	24	31
無償案件数	トライアル実施数	44	94	129

■ 半期ごとの新規獲得案件数の推移



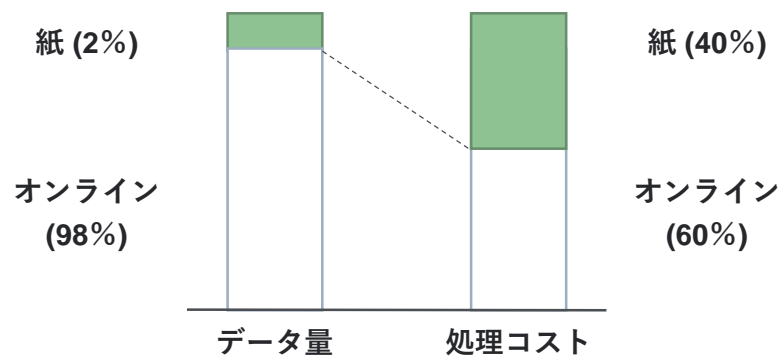
凡そ3か月~半年間の期間をかけ、
 無償トライアル案件は **約50%程度の
 案件が有償案件化** へ

代理店や連携サービスによる案件の
 拡大が順調に推移中

2020年度上期中に、前年度比
 150%の案件獲得を目指す

厚生労働省所管の特別民間法人における大規模医療関連書類に係る業務の効率化に向けた検証PJを受託

■ ポイント 1：現状の紙の処理に多大なるコストがかかっており、非常に大きな導入効果が期待される



- 月に **150~200万枚** ものペーパーベースの処理を行っている
- 全体のデータ量のうち **およそ2%** しか占めていない紙の処理に、**全体のコストの40%** をかけている
- これらの処理の効率化を図ることで、**最大100~150人分**の作業を減らすことが期待できる

■ ポイント 2：様々な業務での活用を検討

審査に関わる処理や、請求に関わる処理など、**様々な業務での活用** の検討が進行中

■ ポイント 3：自然言語処理等を活用した文字認識後の後続処理についても効率化を実現

後続の処理に最適化するため、文字をコードに変換をする技術を提供

文字の記載にゆらぎがあってもうまく変換できるよう **独自の言語処理技術を活用**

- 本資料は、株式会社EduLabの業績等について、株式会社EduLabによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社EduLabの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2020年2月7日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社EduLabによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。